

令和5年度 福野小学校グランドデザイン

【南砺市基本理念】（令和2年度～令和6年度）

未来を切り拓く南砺市の人づくり

【学校教育の基本目標】 豊かな人間性を育む学校教育の充実

【学校教育で目指す子供像】

ふるさとを誇りに思い、未来を切り拓く なんとっ子 ～12年間を見通した教育の実現を目指して～

1 学校教育目標

主体的に活動し、心豊かにたくましく生きる 子供の育成

○考える子 [知] ○人の役に立つ子 [徳] ○元気な子 [体]

2 本年度の重点目標

◎ **自ら考え 判断し 行動する (たくましい) 子供の育成**

子供たちが大人になる頃は、今よりももっと科学技術が進歩し、人の価値観が多様になり、何が起こるか見当も付かない不透明な時代になっていると思われる。解決策なんて、誰にも分からない、誰も教えてくれないであろう。そんな時代を多少の困難にへこたれず、自ら考え判断し行動する、前向きな (たくましい) 人になってほしい。『未来を切り拓く なんとっ子』とはそんな子供だと考える。

3 学校運営の方針

(1) 教員や子供の創意を反映させた教育活動の推進

- これまで中止や縮減してきた行事等ができるようになると考えられる。単に「元に戻す」「やめる」ではなく、改良方法を検討したうえで、実施の仕方を判断する。なお、変更点は、早めに保護者や地域に伝え、理解と協力を得るようにする。
- 行事等の実施に向けては、子供（特に6年生）の思いを取り入れたものにする。（南砺市こどもの権利条例「参加する権利」）

(2) 地域人材や専門家の活用

- 新学習指導要領への対応、「プログラミング」「特別支援教育」「がん教育」「防災教育」「ネット犯罪」「薬害防止」…。何でもかんでも学校だけでできるわけではない。任せられる内容は、専門家に任せ、子供にとって有意義な活動になるようにする。
- これまでの取組に加え、今年は福野スポーツクラブと連携し、陸上競技や器械運動を体育の時間に指導してもらえよう年間指導計画に位置付ける。

(3) 強固な学年・学級経営を基盤にした生徒指導

- 校内研修のテーマに「学級経営」を位置付け、互いを認め合える子供を育てる。
- 子供に自己決定する機会を与え、成功体験（失敗体験も含む）を積み重ねる。
- 南砺市こどもの権利条例を子供や家庭に周知し、子供たちの自己肯定感をあげるとともに、他者の権利も大切にしていかなければいけないという心情を育てる。
- チーム担任制やチーム学校の機能を生かし、問題を抱える子供にはチームで対応する。

(4) 学校の情報発信と保護者や地域等との連携

- 昨年度、管楽器クラブの地域移行、玄関の開錠時刻の遅延、立山登山の廃止、会議室のWi-Fi設置、学校給食へのICT支援等に着手できた。受け止めてくれる保護者や地域がいるのだから、今年度も学校の思いや願いは相談する。
- 保護者や地域・外部機関の協力を得るためにも、各種便りやホームページで学校の考えや子供たちの様子等を知ってもらえるように努める。
- 一方的に願いを伝えるだけでなく、相互利益の関係を大切にする。例えば、お世話になった方を感謝集会や学校行事に招待したり、感謝の手紙を書いたりする。

○アフターコロナの難しい年になります。子供たちのために、よいと思ったことはやっていきます。今年度も、教師と保護者と地域が一枚岩であることが大切です。